

ひまわり

Contents

| | | |
|-----------------|----------------|-----|
| 特集 | 介護ロボット普及の現状と課題 | 2~3 |
| 研修会報告 | | 4 |
| ブロック通信・部会・委員会通信 | | 5 |
| 会員紹介 | | 6~7 |
| 事務局からのお知らせ | | 8 |

2017 98
NO.



いぶし瓦【姫路市】

姫路の伝統工芸でもあるいぶし瓦は、ガスによる還元反応で表面に炭素の銀色被膜を形成させる昔ながらの工法で作られています。職人が一つひとつ手作業で丁寧に作りあげたそのいぶし瓦は、世界遺産姫路城の屋根にも使われています。

工場見学では職人の技を間近で見学、オリジナルフォトフレームやキーホルダー、ミニシャチホコなどの制作を体験できる施設もあります。

発行所／(一社)兵庫県老人福祉事業協会 神戸市中央区坂口通2丁目1-1 TEL.078(291)6822 FAX.078(291)6811 http://www.hyogo-kenroukyo.jp/
発行責任者／石田 文徳 ●発行日／平成29年12月8日 第98号



事務局からのお知らせ

介護技術コンテストを開催しました

平成29年11月12日(日)ホテルクラウンパレス神戸において「介護技術コンテスト」を開催しました。県下7ブロックより7名が日頃の業務で身につけた介護技術を100名を越える多くの方々の前で存分に発揮しました。

龍野北高等学校
総合福祉科の皆様、
ボランティアをしていただき
ありがとうございました。

- 優勝** 片岡 有里乃さん
(特別養護老人ホーム中山ちどり)
副賞 旅行券 10万円
- 準優勝** 酒井 一栄さん
(特別養護老人ホームおかの花)
副賞 旅行券 5万円
- 3位** 西澤 瑠璃子さん
(特別養護老人ホーム明石愛老園)
副賞 旅行券 1万円



行事予定

本会研修事業

- 1月15日(月) 4DAS基礎研修
- 1月22日(月) 4DAS実践研修
- 1月17日(水) 軽費・ケアハウス施設長会・研修会
- 1月25日(木) デイ部会管理者・職員研修会
- 1月29日(月) 養護部会施設長研修会
- 2月4日(日) 4DAS基礎研修
- 2月5日(月)～6日(火) 施設長研修会
- 2月19日(月) 4DAS実践フォロー研修
- 3月8日(木) 終末期フォーラム

県老協加入施設数

H29. 7. 31現在

| | 特 | 養 | 護 | 軽 | ケア | デイ | 計 |
|-------|------------|-----------|----------|-----------|------------|------------|---|
| | 養 | 護 | 費 | ハウス | サービス | | |
| 阪 神 | 64 | 6 | 0 | 22 | 74 | 166 | |
| 東播磨 | 51 | 6 | 1 | 20 | 64 | 142 | |
| 姫 路 | 38 | 3 | 0 | 8 | 35 | 84 | |
| 会 西播磨 | 30 | 6 | 0 | 3 | 41 | 80 | |
| 員 但 馬 | 25 | 3 | 0 | 6 | 41 | 75 | |
| 丹 波 | 11 | 4 | 0 | 3 | 14 | 32 | |
| 淡 路 | 19 | 4 | 0 | 2 | 15 | 40 | |
| 計 | 238 | 32 | 1 | 64 | 284 | 619 | |

※ 賛助会員 1事業所(内訳:団体)

編集後記

月日の経つのは早いと言いますが、もうそこまで新しい年がやってきました。平成29年は、皆様にとってどのような一年だったでしょうか？来年も、役員、事務局一同、会員の皆様のニーズに沿った事業運営に努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

特集 介護ロボット普及の現状と課題

ロボットの介護現場における有用性は、介護人材の不足や介護負担の軽減そして被介護者の安全性確保の点から以前より注目され、そのニーズは日々増していると言えます。近年では身体的援助のみならず、「コミュニケーションや癒し」という精神的援助の分野にまでその価値は期待され実用化が始まっています。長寿国であると同時に技術大国である日本は、世界に先駆けこの介護分野をどのように発展させていくのか、現状・課題等についての報告です。

避けては通れない課題

高齢者人口の著しい増加と少子化の進行に伴う生産労働人口の減少は、2025年問題で象徴されている「人手不足の問題」を年々深刻化させ、今日の医療・福祉分野においても大きな影響を与えています。既に企業の間では様々な作業を機械で自動化し、人手不足を乗り越えようという動きが加速していますが、他の産業分野のロボットとは違って、人が直接的に装着したり接触したりする介護ロボットは、より安全性の配慮が求められ、開発側にとってもハードルは高く、実用レベルに至るまでに時間を要している状況が伺えます。既に介護分野においては、人材確保・定着に向けて処遇改善をはじめとする様々な手立てが講じられようとしています。しかし、これからの介護ロボットも一助となるのか期待も大きいところです。今後、更に人材確保の問題が深刻化していく状況を見ると、介護の現場における新しい技術の活用は、避けては通れない大きな課題です。

新しい技術を受け入れられる職場環境を

介護ロボットの開発や改善はメーカー努力によって日々進歩していますが、同時に私たちが考えなければならぬことは、新しい技術を受けられる職場環境を整えておくことです。「介護は人の手で」という考え方は、未だ多くの介護現場からも聞かれる意見です。長年、利用者の思いや生活に寄り添い、個別のケアや支援を大切にしてきた現場職員にとって、「介護ロボット」と聞くところか違和感ある人もいるかもしれません。しかし従来職員2人で行っていた介助が、機器をうまく



く活用して1人でできることで、利用者の方と向き合える時間をつくりだせると考えるところでしょう。これまで対人援助職として大切にしてきた介護や支援の理念をこれからの人材に受け継いでもらうためにも、今後の介護で機器に委ねる領域と、人が担わなければならない領域を整理しながら、時代にあった職場環境を整えていく発想が求められているように思います。

導入を考える前に

今やテレビや新聞などの報道でも大きく取り上げられている「介護ロボット」ですが、ここ数年の本格的な動きは、国の施策の下での開発支援であり、福祉・介護現場での導入・活用事例は未だ少ない状況です。介護ロボットの導入を考えるにあたっては、機器の特性を把握するなどの目的をもった事前の情報収集とともに、介護負担の大きい業務や機器活用が想定される利用者像など、職場における介護課題の整理・分析をしておくことが必要です。「導入していても使われていない福祉用具」の話もよく耳にしますが、管理監督職と現場の職員が課題を共有することで導入すべき機器が明らかになり、使われる機器へとながっていくものと思われまます。チラシや販売事業者からの情報だけに左右されず、施設として主体的に向き合う姿勢がまず大切であ



社会福祉法人 兵庫県社会福祉事業団
総合リハビリテーションセンター
福祉のまちづくり研究所
次長(介護ロボット普及推進担当)
水口 信宏(社会福祉士)



取材レポート 介護ロボットを活用している会員事業所のレポート

福祉のまちづくり研究所

当該センターでは、介護ロボットの発展を行う上で「企業と介護現場を繋ぐ活動」「開発機器の各種検証」「介護ロボットの普及活動」を主に行っている。

まず、介護ロボットとは、現場ニーズと開発のマッチングが重要であり、そこが最も難しい点である。

また、「現場でヒットするものを開発する必要はあるが、開発された機器の機能限界をどのように現場の人たちが理解し活用するかということも重要であると考えている。

つまり、開発者サイドはどのくらい介護者サイドのニーズを理解し新しい技術を現場に親和させるか、一方介護者サイドもその機能を最大限利用できるよう理解しながら、それらの機能限界をしっかりと把握できるかということが重要だという。我々は機器と言われれば道具と理解しその利用法を模索する。しかし、ロボットといわれるとその汎用性を拡大し認識するのかもしれないということである。

介護ロボットの分野は、「移乗」「移動」「排泄」「見守り」「入浴」など類型化され、それぞれに「屋内型」や「屋外型」そして「装着型」や「非装着型」、さらには、「施設型」と「在宅型」など大別されている。実際には被介護者の身体的・精神的多様性を既述の分類だけでカバーするのは困難で、機器開発は少量多品種になる傾向がある。そのため、価格的な問題も普及活動に少なからず影響を与えているという。しかし現在、国や県でも介護ロボット導入を推進するための補助事業も進められている為、補助をうまく利用することにより比較的安価に導入することができるようになってきているのも事実である。

また、施設系介護における最新技術導入には、もう一つのハードルがあるという。それは、使用者側の被介護者への倫理的配慮やこれまでの介護観である。「見守り系」と「移乗系」の技術は日進月歩の勢いでその精度や安全性を操縦操作性は向上しているものの、被介護者への「プライバシーの確保」や「手で介護をする」という現場職員の思いが根強く残っているからである。

このような現場職員の思いは、崇高であり否定するものではなくこれからの残していく理念であることは間違いない。しかし、これからの介護をどのように進展していくかを考えるとき、介護現場の意識の変革も必要となってくる。

「特別養護老人ホーム いやさか苑」

6年前にオープンした非常にきれいな施設で、田上施設長の笑顔に迎えられエントランスのすぐ横の部屋で取材をさせていただいた。施設長はオープン当初をこう振り返った。「浴室のみに機械を入れていたが、新しい施設を運営する中、介護技術に不安を持っていた。その中で、施設長が法人グループの訪問入浴事業から学んだのが「抱きかかえない介護」であった。抱きかかえないように指導するのではなく、抱きかかえない環境の整備につとめたという。



予防だからと言って……という意見も出た。当時、どのように心の変化を促すか考える日々が続いたという。

まず施設長が行ったのは、表皮裂傷や打ち身など移乗時に起こる事故件数を徹底的に洗い出しリフト導入後の事故減少を職員へ明示したのである。さらに、「特別養護老人ホームは自立支援を促す場所ではあるが依存度の高い自立である」ということへの理解、そして「虐待でなくとも被介護者を傷つけることに物理的な差異はない。」ということ、何より「被介護者と介護者自らの身を守る」ということに時間をかけて現場へ伝えていったのである。

現在では、ノーリフティングケア研修を取り入れ、さらには癒しをもたらすコミュニケーションロボットを導入するなど先駆的な取り組みを行っている。「事故は虐待である」という弁疏を許さない強い言葉が心に残る取材であった。



「特別養護老人ホーム 桃寿園」

桃寿園は、新たな試みに対して積極的な取り組みを行っている施設である。池内施設長は移乗介護のロボット開発段階から購入を検討していた。リフトを利用した介護を基本にしながらもスライディングボードも巧みに併用し、介護職員の手際もスムーズで質の高いトレーニングの成果を目の当たりにした。

施設長曰く、「一見同じように見えるリフトでも、パツテリー！取り直しフックの安定性、メンテナンス等、しっかりとしたメーカーの選別は重要である」という。確かに、安価なリフトには職員が独自にスポンジをまくなど、安全性の確保を補填している部位が見受けられた。

こちらの施設でも事故データの収集は徹底的に行われ、リフト導入後の事故件数は激減したという。「使えるようになるのに2年、実質導入までに3年。」説明



していただく施設長の笑顔の裏には多くの試行錯誤と努力があることは言うまでもない。

現在は、見守り支援用のセンサーの導入も開始され、被介護者と介護者の安全と安心への試みは次のステップへと進んでいる。歴史のある重厚な佇まいの施設内では日々最先端の介護が研究されていた。



取材を終え、現場施設を率いる両施設長から共通して感じられたのは、強いリーダーシップはもとより、介護ロボット導入に際し、現場は実験の場ではなく、安心安全を提供する場であるからこそ、新たな試みを進めているということ。そのためには、徹底したリサーチそして研究をどんなに進められていることであった。それゆえに非常に小さな部分まで行き届いた心遣い、そしてその思慮深さを現場の隅々から伺うことができた。強い理念に基づくだけの努力と熱意そして高い専門知識を感じ、両施設から多くの事を学ばせていただくことができた。

編集委員 前川 義量

阪神ブロック

- 6月26日 総会及び研修会「人事労務セミナー」
講師：社会保険労務士 上田 篤氏・多司馬 達彦氏 参加者59名 総会参加者委任者73/78名
 - 10月5日 施設長会及び研修会「認知症ケア～その歴史からひもとくとき理解を深める～」
講師：社会福祉法人慶生会大阪市エリア次長 松原 宏樹氏 認知症介護指導者である本氏より、認知症ケアの歴史からその本質を学びました。参加者90名
- 施設長会では、出前授業、認知症予防教室、介護技術講習会、介護技術コンテスト、国への要望、兵庫県予算に対する要望等が議題となりました。参加者45名

東播磨ブロック

- 5月15日「日本人が忘れてしまったこと」講師：元NHKアナウンサー・宮司 宮田 修氏
- 6月22日「生活支援の場でのターミナルケア」～本当の多職種連携とは何か～
講師：高口光子氏 参加者 93名
- 7月11日「介護者が知っておきたいマヒと拘縮集中講義」
講師：生活とリハビリ研究所 三好春樹氏 参加者 119名
- 9月12日「身体拘束と不適切ケア」～介護現場における事故と転倒予防～
講師：メイアイ ヘルプユー 鳥海房枝氏 参加者 91名
- 11月13日「3つの“生き方・活き方・逝き方”を支えていこう」
講師：株式会社 いろ葉 代表 中迎聡子氏
- 11月30日「認知症のお年寄りと不適切ケア」～ケアが虐待にならないために 講師：高口光子氏
- 12月6日 ケアプラン研修会 講師：ケアプラン派遣委員会委員長 藤原重樹氏
- 平成30年1月16日「シーティング基本知識と実践講座」
講師：有限会社 たく工房 シーティングエンジニア 光野有次氏を予定しております。

西播磨ブロック

- 8月2日に、西播磨ブロック老人福祉施設連盟大会をホテルサンシャイン青山にて、元全日本女子バレーボール監督で現ピクトリーナ姫路ゼネラルマネージャーの眞鍋政義氏による基調講演「逆転発想の勝利学～チームのスイッチを入れる～」と介護用品等情報交換会及び加盟施設職員の交流会を実施しました。

但馬ブロック

- 10月18日、和田山ジュビターホールにて「ケアプラン基礎研修会」を開催しました。
- 11月2日、保健福祉センターにて、デイサービス職員を対象とした「職員のモチベーションをあげるために」の研修を開催しました。

姫路ブロック

- 5月12日 新人職員研修「マナー研修」講師：(株)トータルマナー 田野直美氏
「ケアプラン研修」講師：第二姫路・勝原ホーム 藤原重樹氏
- 8月3日 施設長研修会「技術実習生制度について」講師：協同組合 吉田次夫氏
「高齢者福祉の動向について」講師：兵庫県健康福祉部少子高齢局高齢対策課 課長 津曲共和氏
- 11月15日 職員研修「伝える力」講師：高室成幸氏

丹波ブロック

- 7月14日 ハートフルかすがにて丹波ブロック総会・全体研修
「こころ元気に仕事するには ～感謝の気持ちで人生・ビジネスを変える～」
講師：鎌田 敏氏をお迎えし開催しました。
- 今後の予定 特養部会・養護部会・デイ部会の各部会を随時進めています。

淡路ブロック

- 7月20日 行政関係連絡会議
- 9月8日 看護、介護職員研修「看護職と介護職の協同・連携 ～サービス向上に向けて～」
講師：特別養護老人ホームおきなの社 理事・看護部長 小村一左美氏
- 10月20日 給食関係職員研修会
「ソフト食から常食への取り組み～自力摂取によって食の喜びを取り戻す～」
講師：特別養護老人ホーム フレンズホーム 施設長 飯田能子氏、生活介護課長 渡邊久子氏、
「そろそろ非常食を1から見直してみよう」講師：日本災害食学会 災害食専門員 山田治代氏
- 11月9日 施設長会「今後の介護保険制度の動向について」
講師：兵庫県健康福祉部少子高齢局高齢対策課 課長 津曲共和氏
- 11月17日 ケアプラン研修会
- 12月 リスクマネジメント研修を予定。

部会・委員会通信

◎ 介護保険推進事業

介護報酬改定の影響調査を実施・分析したものをホームページに掲載しております。又本調査に基づき厚生労働省と意見交換を行いました。(詳細は、かけはし97号号外に掲載)

◎ サービス評価事業

平成29年度サービス評価事業を実施しています。(本年度評価12施設、再評価2施設)

◎ 介護人材確保推進委員会

将来の老人福祉事業の担い手となる小学生・中学生・高校生・大学生やその保護者・教員に向けて介護業務等の魅力を発信するとともに、現場で働く介護職員等が圏域内の中学校等を訪問し、介護業務の魅力を伝える「出前授業」を随時実施しております。そして、実施後は生徒や先生から好評を得ています。また、本会HPをリニューアルし、「ひょうご介護求人ネット」で、会員施設の求人情報を閲覧できるよう求人用検索機能を追加しました。就職出前プレゼンテーションは、就職に結びついており来年度も実施予定です。今年度は「介護技術コンテスト」を実施し、介護に携る職員さんの日頃の研鑽を多くの方々に見ていただき、大いにアピールできました。

◎ 調査研究委員会

平成29年度は「外国人技能実習制度」をテーマに、社会福祉法人の人材不足に視点をあてた調査をする予定です。

◎ 編集委員会

“こんな取組みははじめました”コーナーでは会員施設の取り組みをご紹介します。情報をお寄せください。かけはし99号発行は3月を予定しています。

◎ ケアプランリーダー養成・派遣事業委員会

平成29年度は、8月神戸・9月姫路・10月和田山の3会場に於いてケアプラン基礎研修会を開催しました。

◎ 研修委員会

平成30年2月5日～6日神戸メリケンパークオリエンタルホテルにて施設長研修会を、3月8日兵庫県民会館にて終末期ケア普及フォーラムを開催します。

◎ 養護部会

今年度は、よりよい食事提供をテーマに高齢者の食事のあり方について第1回職員研修会を8月30日に、第2回職員研修会を10月10日に実施しました。施設長研修会を1月29日に予定しておりますので、ご参加をお待ちしております。

◎ 軽費・ケアハウス部会

平成30年1月17日、軽費・ケアハウス部会施設長研修会を開催します。春名・田中・細川法律事務所 田中賢一弁護士をお迎えし、『身寄りのない方の入退所に対する準備・仕組みづくり(案)』をテーマに講演いただきます。是非、ご参加ください。

◎ デイ部会

平成30年1月25日に、NPO法人日本介護福祉教育機構 妹尾 弘幸氏を迎えデイ部会管理者研修会を予定しておりますので、ご参加ください。

◎ 地域サポート型施設普及推進事業

平成30年1月16日地域サポート型施設専門相談会を開催します。関西学院大学人間福祉学部人間福祉研究科 藤井博志教授に「地域と福祉」をテーマに講義いただき、地域サポート型施設に認定された3事業所の事例発表にもアドバイスを頂きます。

軽費・ケアハウス部会 職員研修会

平成29年10月3日(火)開催
場所 兵庫県福祉センター

兵庫県立大学大学院緑環境環境マネジメント研究科准教授 豊田正博氏を招いて、講義「高齢者と職員のための園芸療法」ストレス軽減と脳トレ効果を実感しよう」と実習「豆苗のセルトレイを使った種まき」を行いました。

講義では、園芸療法とは何か、人と植物の深い関係、ストレスと高齢者に関する疾患、認知症一次予防、認知症二次予防、脳の話などについて詳しく教えて頂きました。園芸は対象者に合わせて難易度の調節が容易で誰もが参加できやすく、疾病、年齢、障害を問わず誰もが対象者になること、創作活動、花壇・畑の散策、草引き、野菜の収穫など、療法の内容は幅広いということ、園芸療法を通して、ストレス軽減や認知機能の改善、ADLの維持・向上、交流促進、生活習慣病・認知症予防につながるということを学びました。

実習では、種まき作業を行った後に、その作業が人にもたらす効果についてグループワークを行いました。作業を行うことで、注意の維持、緊張の緩和、目と手の協



調性、指先の巧緻動作、体性感覚など精神・身体機能にも良い効果があること、作業後には達成感、愛着、期待感・満足感、責任感、指先を動かすことによる脳の刺激、移動動作、会話・相談などが得られ、精神的・身体的・社会的健康につながるという説明があり、一つの作業の中でもこれだけの効果・作用があるということを実験・認識できました。

講師の方から観葉植物の埃取りでも認知機能改善のプログラムに役立つとの話を聞き、園芸療法は身近で取り組みやすいものだということを実感した研修会でした。

編集委員 湯本健作

養護部会職員研修会

平成29年8月30日(水)開催
場所 兵庫県福祉センター

超高齢社会における栄養の問題として、肥満や疾病予防だけでなく後期高齢者では、低栄養や栄養不足などによる衰弱や筋力の低下も問題になっています。

さらにこのような栄養に係る状況から、高齢者の死因で誤嚥性肺炎が第3位に上がっています。

県立広島大学人間文化学部健康科学科の教授であり、日本摂食嚥下リハビリテーション学会の理事でもある榎下淳氏をお招きして、「高齢者の食事のあり方」について、高齢者の嚥下機能の回復だけでなく食事の「かたさ」や飲込みやすさ、液体の「とろみ」などを考慮した嚥下調整食の分類について基準が明確になるよう数値化され、さらにはお店で簡単に手に入り、かたさや飲込みやすさが段階的に示された新しい介護食「スマイルケア食」の紹介や栄養補給の方法など、今後を見据えた高齢者の食事について講演いただきました。

摂食状況では、高齢者の低栄養に深く関係する「咀嚼力」と「嚥下機能」また「舌圧」という食物を押しつぶす力についても言及され、様々な機能を日々訓練することで健康な生活を維持することが出来ると述べられ、施設介護では、「低栄養で高齢者を餓死させてはならない」と警笛を鳴らしてお



編集委員 池内玲子

られました。

高齢者においては、唾液の分泌については、老化だけでなく服薬の作用や日常生活の自立度にも関わり個人差があることなどを詳細な説明とともに実際に「唾液の飲込みテスト」を行い唾液を飲込むことのむずかしさや、かたさの分類が実感できる「かたさ」と「凝集性」「付着性」の違いを説明いただき、実際に食すことで、離水の状態や嚥下のしやすさを体感することが出来ました。

要介護者においては、介護者がどのように食事に対するケアをするか、また多職種連携によって成り立つ摂食までの一連のケアの在り方が大切であると感じました。

清和苑ゆうホーム

特別養護老人ホーム／阪神ブロック



社会福祉法人 友朋会
清和苑ゆうホーム

施設長名 東井 多賀代 定員数 108名
住所 〒666-0142 兵庫県川西市清和台東2丁目4-32
TEL 072-799-6200 FAX 072-799-6232
ufoseiwa@skyblue.ocn.ne.jp
併設事業 居宅介護支援センター 通所介護 短期入所生活介護
認知症対応型共同生活介護 ケアハウス(特定施設)清和台地域包括支援センター
緑台地域包括支援センター

もみじデイサービスセンター

地域密着型通所介護／但馬ブロック



社会福祉法人 新温泉町社会福祉協議会
もみじデイサービスセンター

施設長名 門村 典子 定員数 18名
住所 〒669-6821 兵庫県美方郡新温泉町湯1019
TEL 0796-92-1866 FAX 0796-99-2489
onsensyakyo@yumenet.tv

「個を尊重し今を大切に共に生きる」

これは私たち清和苑職員の道しるべとなる法人理念です。この理念をもとに個を尊重したケアを日々実践しています。理念の実践というテーマで一年に一度苑内で研究発表をしています。例えば「温泉に行きたい」というご希望をお持ちの歩行困難な方には浴槽を跨ぐというリハビリを重ね、日帰り温泉ツアーが実現しました。看取りの方のお食事への関わりを中心にした発表には胸が熱くなりました。これらの研究は毎年家族会でも発表し、皆様的好评です。「こんなによく考えてもらえておばあちゃんは幸せです」「皆さんの努力がよくわかり感謝の気持ちでいっぱいです」などの嬉しいお言葉も頂戴しています。



開設23年目を迎える施設として、築いてきた地域の皆様との深い絆を大切にしながら入居者様・ご家族様・職員の「個」を尊重し「今」を大切に、思いを形にできるような共に歩み、支援させて頂きたいと思っています。

聖隷逆瀬台 デイサービスセンター

通所介護／阪神ブロック



社会福祉法人 聖隷福祉事業団
聖隷逆瀬台デイサービスセンター

施設長名 長井 宏 定員数 40名
住所 〒665-0024 兵庫県宝塚市逆瀬台6-1-2
TEL 0797-77-3456 FAX 0797-77-3587
ds-sakasedai@sis.seirei.or.jp

特別養護老人ホーム 第二サルビア荘

特別養護老人ホーム／東播磨ブロック



社会福祉法人 円融会
特別養護老人ホーム第二サルビア荘

施設長名 北川 康弘 定員数 159名
住所 〒675-2401 兵庫県加西市国正町1931-2
TEL 0790-45-1801 FAX 0790-45-1807
dainisarubia@enyukai.jp
併設事業 短期入所生活介護 特別養護老人ホーム第二サルビア荘
通所介護 第二サルビア荘 デイサービスセンター
訪問介護 第二サルビア荘 訪問介護事業所
居宅介護 第二サルビア荘 居宅介護支援事業所
在宅介護支援センター 第二サルビア荘
ケアハウスシュヴェルニー カサイ



もみじデイサービスセンターは平成14年に町の保健福祉センター建設に伴い事業所が移転となり、その後、合併により平成17年10月より新温泉町社協のデイサービスとして、新たに始まり今年で13年目を迎えました。

当施設は湯村温泉の近くであり、温泉を利用した大浴槽や昼食では四季折々の地元の食材を活かした手作りの食事を提供させて頂いたとき、利用者の皆様にとっても好評をいただいております。又、信頼される介護はもちろん、お一人おひとりの特技や趣味などをともに、裁縫やちぎり絵、軽作業などの活動を通じて利用者様の自信と笑顔が見られるよう、個別に関わる時間を大切にしています。

平成29年4月より地域密着型

聖隷逆瀬台デイサービスセンターは平成7年10月に開設し、大阪平野が一望できる景色の良い高台の自然に囲まれた場所にあります。

「利用者個々のニーズに柔軟に対応できるデイサービス」を職員の間で、他のサービス事業所との連携を大切にしています。

特色としては介護中重度、認知症状の高い利用者を幅広くお受けしています。個々のレベルに合わせて入浴出来る環境を整え、食事には旬の食材を活かし施設内の厨房で調理しています。市の委託で配食サービスも行っており、夕食弁当も人気です。認知症対応のフロアを別に設け、少人数で個別のニーズに合わせた対応も



行っています。看取り期の方も利用頂いており、住み慣れた地域で最期まで過ごすためにデイサービスに出来る事は何かを、日々考え取り組んでいます。今後は社会福祉法人の役割でもある地域福祉推進に向けて基準該当生活介護サービスを導入し、共生型サービスの役割が担えるデイサービスとなるように努めていきます。

特別養護老人ホーム第二サルビア荘は、法人理念である「共に暮らす」を念頭に平成3年に加西の地に開設し、平成6年・平成9年と二度の増築を行いました。その間特養の増床に加え、居宅介護支援事業所・訪問介護・ケアハウス等の事業所を開設し、多くの方々の支援を得て、地域福祉の貢献に努めてまいりました。

当施設は、近隣に播磨中央公園があり、緑豊かな素晴らしい環境です。現在、159名の利用者の方々が共に過ごされていますが、その中で百歳以上の利用者の方が9名いらっしゃいます。人生の大先輩の方々に、その人らしく生活を行って頂くため、尊厳を忘れることなくケアに当たっています。



す。また、利用者の方々に社交流が図れるよう、地元の方々や近隣の小中学生に施設へと足を運んで頂く施設外行事を多々行っています。

今後も、職員一丸となって法人理念の実現に努めていきたいと考えております。